

厚生病院のトピックス

厚生病院

目次		
1	改革プランの遂行	P. 1
2	7年ぶりの黒字化	P. 2
3	臨床研修医の受入人数の大幅増	P. 2
4	リハビリ体制の充実（PT、STの増員）	P. 3
5	最新型マルチスライスCTの導入	P. 3
6	地域医療連携室の拡張整備に着手	P. 3
7	全病棟夜勤3人体制の整備（年度内完了予定）	P. 3
8	ライナック装置更新に着手	P. 4
9	東日本大震災への対応	P. 4

1 改革プランの遂行

平成22年度実施に 当たり改善等に取り 組んだ点	成果・実績	課題																				
第1期改革プランの 実施状況を踏まえた 今後の事業展開を慎 重に検討するととも に、病棟機能の充 実、人材育成・養成 等の新たな課題を整 理し直した。	今後5年間における厚生病院の 果たすべき役割・改革戦略及び 計画期間中における黒字経営の 維持を目標とする経営方針を明 確にすることができた。	第2期改革プラ ンの着実な実行																				
	〔改革プランの進捗状況（平成22年度）〕																					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">指標の項目</th> <th style="width: 25%;">プラン指標 a</th> <th style="width: 25%;">実績 b</th> <th style="width: 25%;">差引 b-a</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支比率</td> <td style="text-align: center;">98.9%</td> <td style="text-align: center;">100.5%</td> <td style="text-align: center;">1.6%</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率</td> <td style="text-align: center;">94.2%</td> <td style="text-align: center;">96.3%</td> <td style="text-align: center;">2.1%</td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td style="text-align: center;">84.0%</td> <td style="text-align: center;">84.5%</td> <td style="text-align: center;">0.5%</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td style="text-align: center;">14.0日</td> <td style="text-align: center;">13.7日</td> <td style="text-align: center;">△0.3日</td> </tr> </tbody> </table>	指標の項目	プラン指標 a	実績 b	差引 b-a	経常収支比率	98.9%	100.5%	1.6%	医業収支比率	94.2%	96.3%	2.1%	病床利用率	84.0%	84.5%	0.5%	平均在院日数	14.0日	13.7日	△0.3日	
指標の項目	プラン指標 a	実績 b	差引 b-a																			
経常収支比率	98.9%	100.5%	1.6%																			
医業収支比率	94.2%	96.3%	2.1%																			
病床利用率	84.0%	84.5%	0.5%																			
平均在院日数	14.0日	13.7日	△0.3日																			

2 7年ぶりの黒字化

(百万円)

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
医業収益	4,375	4,244	4,501	5,132	5,731
医業費用	5,111	4,963	5,300	5,714	6,013
医業収益	△736	△719	△799	△582	△282
経常収益	△301	△376	△507	△114	32
純損益	△276	△666	△547	△299	101

- ・全体損益では平成15年度以来（7年ぶり）の黒字を計上
 - ・平成21年度との対比では、
 - 医業収益 599百万円の増
（診療報酬プラス改定 約1億8千万、7対1看護 約1億9千万、入院・外来稼働増 約2億2千万）
 - 医業費用 299百万円の増
（給与費 約2億2千万（H22.3とH23.3の現員（正職）比較 医師2増、看護師21増、医療技術3増）、材料費 約1億1千万）
 - ・人員拡充に伴い、昨年度に比較して、
 - 1日あたり入院患者数 8人増
 - 〃 外来患者数 8人増
 - 平均在院日数 0.8日短縮（14.5日→13.7日）
 - 救急車搬入患者数 213人増（対前年12%UP）
 - 入院機能訓練延患者数 3,676人増（対前年31%UP）
- と稼働が向上し、収益が大幅に改善

3 臨床研修医の受入人数の大幅増

平成23年度は、18年度と並び最も多い4名の研修医（3名は公募、1名は自治医科大学卒）を迎え、病院の機能の一つである医師養成の役割を果たしている。

【制度導入後の研修医の受入状況】

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
在籍人数	0	1	4	3	1	1	1	4

4 リハビリ体制の充実（PT、STの増員）

平成23年度に理学療法士1名を増員し、リハビリ体制を充実

【近年のリハビリ関係専門職の人員数の推移】

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
理学療法士	3	3	3	4	5
作業療法士	0	0	1	1	1
言語聴覚士	0	1	1	2	2

5 最新型マルチスライスCTの導入

新型の160列の多列検出器型（マルチスライス型。単列検出器型に比べ1回転でより多くの範囲の撮影が行えるもの。）のCTを6月27日より稼働。これまでの16列型のCT装置に比べ格段に撮影範囲が広がり、検査の質向上に貢献。

- ・1度の回転で80mmの幅の体の撮影が可能（従来機では10mm）となり、従来の4分の1程度の短時間でより多くの情報を得ることが可能。
- ・また、最新の技術により、30～40%の被ばくの低減が可能。

6 地域医療連携室の拡張整備に着手

平成23年度に、地域医療連携室に臨床心理士1名を新たに配置。併せて、非常勤の事務担当職員を配置し、医療ソーシャルワーカーが相談業務に専念できる体制を整備。体制整備に伴い、職員6名による円滑な業務遂行が可能となるよう、年度内に一部を増築し、地域医療連携室を拡張予定。（11月末完成予定）

7 全病棟夜勤3人体制の整備（年度内完了予定）

急性期医療への的確な対応、夜間における看護業務の負担軽減のため、近年看護師を大幅に増員。平成22年10月より、準夜勤での全病棟3人夜勤体制をスタートさせたが、今年度後半までには、深夜帯についても全病棟3人夜勤体制をスタート予定。

単位：人（ ）内は、非常勤職員

区 分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
看護 師	(33) 189	(29) 182	(29) 216	(27) 242	(41) 256

注：育休代替職員を含まない

(参考)

(平成23年4月1日現在)

病棟区分	看護単位 (許可病床数)	左の内訳		入院基本料	夜勤体制	
		診療科	許可病床数		準夜	深夜
7階病棟	44床	内科、脳神経内科、 脳神経外科	44床	7:1	3人	2人
6階病棟	50	内科、呼吸器内科、 循環器内科、消化器内科	50	"	3	2
5階病棟	50	整形外科、眼科、 外科、消化器外科	50	"	3	2
4階病棟	50	小児科、内科、泌尿器科 耳鼻いんこう科	50	"	3	2
3階病棟	46	外科、消化器外科	46	"	3	2
	10	集中治療室	10	"	3	3
2階病棟	50	産婦人科、外科(乳腺疾患)、 分娩室、新生児室	50	"	4	4
外来・中央診療棟 6階	4	感染症病室	4	"		
計	304		304		22	17

8 ライナック装置更新に着手

平成14年度に整備した現在のライナック装置(放射線治療装置)に代わる新型ライナック装置の入札を5月に終え、同装置の建物の設計に6月に着手。平成24年末に新装置稼働予定(23~24年度の継続事業)。

新型ライナック装置は、現在の機器に比べ、照射エネルギーが4MeVから10MeVへと格段に増え、より深部への的確な治療が可能となるほか、治療計画用CT装置を同時整備にすることより、CT装置の2台体制を確立し、救急医療体制の一層の充実を図る予定。

9 東日本大震災への対応

(1) 震災発生直後の対応(DMATの対応)

<3/11(金)14:46発災>

15:13 DMAT待機要請のFAXを受信

16:55 医療政策課よりDMAT派遣の要請

17:33 DMAT隊の医師2名が出張中のため、派遣不可を決定し、
医療政策課へ報告

<3/12(土)>

13:00 DMAT待機開始

15:25 隊員参集し、資機材の点検・準備開始

16:30 EMISでDMAT新規派遣は保留の連絡

< 3 / 1 3 (日) >

8:30 隊員集合。

21:46 E M I S で新規派遣不要との連絡があり、不派遣を決定。

(2) 医療救護班の派遣

鳥取大学医学付属病院、県立中央病院、県立厚生病院の3病院が分担し、3月17日から切れ目なく、宮城県牡鹿郡女川町の総合体育館救護所に医療救護班を派遣。

厚生病院は、これまでに6班総勢24名のスタッフを派遣し、現地救護所での診療及び巡回診療等の業務を担当。

- ① 第1班 (3/22～3/27 医師1名、看護師2名、臨床検査技師1名)
- ② 第2班 (3/31～4/ 4 医師1名、看護師2名、薬剤師1名)
- ③ 第3班 (4/10～4/14 医師1名、看護師2名、薬剤師1名)
- ④ 第4班 (4/20～4/24 医師1名、看護師2名、薬剤師1名)
- ⑤ 第5班 (5/ 1～5/ 5 医師1名、看護師2名、事務職員1名)
- ⑥ 第6班 (5/15～5/19 医師1名、看護師2名、事務職員1名)

※第1班派遣当時は、夜間を含め、多数の患者の対応、下痢・嘔吐症状の多発で多忙を極めていたが、徐々に患者数が減少し、5月からは夜間診療を停止し、活動はほぼ日中にシフト。

